

問1 大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）のような巨大な古墳が築かれた背景や、その特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年

東京都公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 墳丘の周囲には三重の堀が巡らされており、王の強大な権力を誇示する目的があったと考えられる。 | 2. 古墳の表面には、仏教の影響を受けた装飾として、寺院から伝わった瓦が並べられていた。 | 3. 古墳の形状は、日本独自の形式である円墳が採用され、大陸の影響を一切排除して造られた。 | 4. 死者を弔うために、土で人や動物の形を作って焼き上げた土偶が墳丘の周囲に並べられた。 |
|--|--|---|--|

問2 古墳時代の中期から後期にかけて、大陸から伝わった技術や思想が当時の日本に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2015年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。 | 2. 日本独自の文字である「かな文字」が考案され、古今和歌集のような優れた文学作品が生まれた。 | 3. 律令国家の仕組みを確立するため、国家の成り立ちを記した日本書紀などの歴史書が作成された。 | 4. 大陸から青銅器の製作技術が伝わり、農耕の収穫を祝うための祭りの道具として普及した。 |
|---|---|---|--|

問3 大和政権が朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年

新潟県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国風に改めるため | 2. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため | 3. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため | 4. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため |
|---|--|---|---|

問4 5世紀ごろの古墳からは、鉄器の材料となる「鉄の延べ板」が数多く出土しており、朝鮮半島から移住してきた人々がもたらした技術の高さがうかがえます。これら渡来人が当時の日本（ヤマト王権）に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2021年

千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。 | 2. 遣隋使が派遣されたことで、中国の優れた官僚制度がそのまま導入され、即座に律令国家が完成した。 | 3. 平城京を中心に商業が発展し、全国で和同開珎などの貨幣が日常的に使われる経済構造へと変化した。 | 4. 仏教が初めて伝来したことにより、それまで行われていた古墳の築造が全国で一斉に禁止され、寺院建築に移行した。 |
|---|---|---|--|

問5 縄文時代と古墳時代の出土品の違いについて説明した文として、最も適切なものを1つ選びなさい。（2026年 徳島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 埴輪は縄文時代の集落跡から多く出土し、土偶は古墳時代の豪族の墓から出土する。 | 2. 土偶も埴輪もどちらも古墳時代の副葬品であり、大仙古墳などの大型古墳から出土する。 | 3. 鉄剣や銅鏡は縄文時代から用いられ、土偶は古墳時代になって権力の象徴として副葬された。 | 4. 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。 |
|---|---|---|--|

問6 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、漢字や儒教、仏教などの大陸文化や、優れた製作技術を伝えた人々を何と呼びますか。（2021年 鳥根県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 御家人 | 2. 遣隋使 | 3. 渡来人 | 4. 防人 |
|--------|--------|--------|-------|

問7 5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため | 2. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため | 3. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため | 4. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため |
|--|--|---|--|

問8 群馬県の綿貫観音山古墳から出土した資料などに見られる、灰色で硬く焼き締められた土器の製作上の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 群馬県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた | 2. 中国大陸の青銅器の影響を強く受け、表面に複雑な幾何学文様を彫り込んで焼かれた | 3. 日本列島で古くから用いられてきた伝統的な技法で、野外で比較的低い温度で焼かれた | 4. 稲作が普及し始めた時期に、表面に縄目の文様をつけてから乾燥させて焼かれた |
|--|---|--|---|

問9 日本最大の前方後円墳である大仙古墳など、古墳時代の遺跡や出土品に関する説明として誤っているものを、次のうちから1つ選びなさい。（2026年 徳島県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|---|
| 1. 古墳の周囲や墳丘には、素焼きの土器である埴輪が並べられた。 | 2. 大仙古墳のように円形と方形を組み合わせた形状の古墳が造られた。 | 3. 豪族の権威を示すための副葬品として、銅鏡や鉄剣などが納められた。 | 4. 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。 |
|----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|---|

問10 世界の歴史において、7世紀初頭にムハンマドがイスラム教を創始した時期、日本において行われていた政治体制や社会状況として正しいものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|------------------------------------|---|
| 1. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かり、邪馬台国が30余りの国を従えていた。 | 2. 平城京が建設され、律令に基づいた中央集権的な国家体制が整備されていた。 | 3. 北九州の「倭の奴国の王」が、後漢の皇帝から金印を授かっていた。 | 4. 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。 |
|---|--|------------------------------------|---|

問11 5世紀の日本において、倭の五王と呼ばれる王たちが中国の南朝へ繰り返し使節を送った目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年

長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利するための軍事同盟を、中国の王朝と結ぶため | 2. 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため | 3. 平城京を造営するためのモデルとして、中国の都の仕組みを詳しく調査するため | 4. 沿岸部で活動し周辺諸国を苦しめていた倭寇を取り締まるよう、中国から要請を受けたため |
|--|--|---|--|

問12 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2018年 熊本県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆が大規模な土木作業に動員できるようになった。 | 2. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強化された。 | 3. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。 | 4. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。 |
|--|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 墳丘の周囲には三重の堀が巡らされており、王の強大な権力を誇示する目的があったと考えられる。	古墳時代中期に造られた大仙陵古墳は、鍵穴のような形をした日本独自の「前方後円墳」であり、周囲には三重の堀が巡らされています。このような大規模な土木工事を伴う古墳の建設は、当時の大和政権の王が、膨大な労働力を動員できるほどの強い権力を持っていたことを視覚的に示す役割がありました。なお、古墳に並べられたのは埴輪であり、縄文時代の土偶とは区別されます。
問2	答え 1 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。	渡来人によってもたらされた技術は多岐にわたります。実生活では、灰色の硬い土器である「須恵器」が作られるようになり、精神面や政治面では、国家の統治原理にもつながる「儒教」や、後に鎮護国家の思想へと発展する「仏教」が伝えられました。他の選択肢にある「かな文字」や「古今和歌集」は平安時代、「青銅器の祭器化」は主に弥生時代、「日本書紀」の完成は奈良時代の出来事であり、時期や内容が異なります。
問3	答え 2 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立ちました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問4	答え 1 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。	渡来人が伝えた鉄器の製造技術は、それまでの木製や石製の道具に比べて耐久性と効率を飛躍的に高めました。これにより、大規模な治水工事や開墾が行われて農業生産力が増大し、その経済力を背景に大王（ヤマト王権）を中心とする支配体制の基盤が強化されることにつながりました。
問5	答え 4 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。	埴輪は古墳時代に造られた古墳に並べられた土製品ですが、土偶は縄文時代に魔よけや豊かな収穫などを祈るために作られたものです。このように、作られた時代や使用目的が異なります。
問6	答え 3 渡来人	朝鮮半島での動乱などを背景に、優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ渡ってきました。彼らは大和政権に仕え、文字（漢字）の記録や外交、土木技術、金属工芸などの分野で重要な役割を果たし、日本の古代国家形成に大きな影響を与えました。
問7	答え 1 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしていました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。
問8	答え 1 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた	群馬県の綿貫観音山古墳から出土したような灰色の硬質な土器は須恵器と呼ばれます。これは5世紀頃に朝鮮半島から伝来した技術で、斜面に作った穴窯を使用することで、野焼きでは不可能な1000度以上の高温状態を保って焼成されました。この製法によって粘土が焼き締まり、金属のような硬さを持つ土器が誕生しました。
問9	答え 4 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。	土偶は縄文時代に作られたものであり、古墳時代のものではありません。古墳時代には、古墳の周囲に埴輪が立てられ、内部には副葬品として銅鏡や鉄剣などが納められました。
問10	答え 4 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。	7世紀初頭の日本は、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇を助けて政治を行っていた時期にあたり、政治組織としては大和政権の段階にあります。同時期の世界では中東でイスラム教が誕生しています。他の選択肢について、金印の授与は1世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼の活躍は3世紀、平城京への遷都は8世紀（710年）であり、それぞれの時期が異なります。
問11	答え 2 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問12	答え 2 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。	巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。